

年間第22主日

福音朗読 マタイ 16・21-27

2023.9.3 9:30 ミサ  
カトリック高円寺教会  
主任司祭 高木健次神父

この世界には色々なわたしたちを苦しめる悪が存在するということは否定しようがないと思います。色々な大きなレベルでの人間の苦しみをもたらすこと、また、一人ひとりの心の中にある悪、またそれが表に表面化することによる犯罪であったり、ですけれど、そのような悪に対してどうして神様は放っておかれるのかという問い掛けがしばしば信仰の無い人の側からも向けられる。「神様がいると言うのなら、どうしてこのことが起るのか」という問いですが、しかし教会は信仰によって、神様が忍耐されて、一人ひとりの回心を待っておられ、世の完成の時を先に延ばされていらっしゃると信じています。

今日の福音の中で、イエス様が自分の道は十字架に付けられる道なんだと言うときに、「そんなことはあってはならない」と言ったペトロの考え方には、神様ならばいっぺんで色んな問題を、悪を滅ぼして、そしてご自分に反対する者が「恐れ入りました」という形でひれ伏して、より良い世界を造ってほしい、そういう願いが土台にあると言えるでしょう。しかし、イエス様は、救いというのは十字架に付けられる者から来るのだ、十字架に付ける者から来るのではない、ということをご自分の生き方を通して示されたわけです。

これは、神様をご自分で力を振って全ての問題を一度に解決してほしいという願い、あるいはそうすべきだという考え方は、人間の行動にも反映するからです。多くの権力者がより良い世界を造るという名目のもとに反対する者を容赦なく抹殺してゆくということの理由になる、そういう考え方です。ですから、イエス様はそのことを徹底的に排除されるわけです。

人類の進歩やより良い世界の建設のためには障害は排除して良いのだ、というような考えを取らない神様の忍耐を示されるのがイエス様の十字架の道なわけですが、前の教皇様のベネディクト十六世はこの神の忍耐に触れて、あるお説教の中で「わたしたちは神の忍耐強さのゆえに苦しんでいます」とおっしゃいます。「にもかかわらず、わたしたちは神の忍耐強さを必要としています」。このように語られるんです。神様が悪をいっぺんに滅ぼしてくれないから色々な苦しみがこの世にある。しかし、わたしたちがその神様と同じ忍耐強さをもって物事

に対処しなければ、世界を破壊してしまう。このように続けられます。「世は、神の忍耐強さによってあがなわれます。世を破壊するのは、人間の性急さなのです」。

今日、わたしたちは「被造物を大切に作る世界祈願日」のごミサをお捧げしています。被造物を大切に作る、よりなじんだ言葉で言えば、地球環境の保護を思い起こしそのために行動する日ということになるのでしょうか。この日は日本の教会では9月の第一日曜日にお捧げされますけども、世界の教会では9月1日にあたっています。ただそれは、日本ではみんなが集まれるとは限らないので、日曜日に移してお祝いします。同時に、9月1日から10月4日まで一か月余りを、これはカトリック教会だけではなく、他のキリスト教の諸教派と一致して被造物を大切に作るための一か月間、日本の教会では「すべてのいのちを守るための月間」というふうに名前が付けられています。そのために考え祈り行動するように呼びかけられた時をわたしたちは過ごしていくことになります。

この地球環境、被造物が破壊されているというのも、自分が欲しいものを今直ぐにどんな手を使ってでも得るといふ、わたしたちの心の中にある傾きが、いわばわたしたちの性急さが積もり積もって、色々なものを、神様がお造りになったこの世界を破壊しているという現実を直視するように招かれるわけです。そして、実際に環境が破壊されていることで苦しみの中にある人がいる。例えば、水が無くなってきてしまったり、自分たちが住むことができる環境が無くなってしまったりという現実がある。また将来の世代において人間が生きることができる世界が果たして保たれるのかという心配が日増しに増えていっているということでもあります。

環境保護と言えば、場合によっては人間否定、人間がこの地球には不必要なものなんだっていうような発言があったり、あるいは誰かを攻撃して止まない非常に攻撃的な形を取る場合もありますが、わたしたちが「信仰に基づいて神様からいただいた被造物を大切にしていこう」ということを取り組むときには、その出発点は愛でなければならぬわけです。そして、今実際に苦しんでいる人たちへの愛、また将来の人々への愛、全てをお造りになってわたしたちに委ねてくださった神様への愛であると同時に、その取り組みは誰かを滅ぼしたり攻撃したりすることではなく、一人ひとりの心が変わってゆき、行動が変わってゆく、そのことを絶えず呼びかける神様の忍耐、その心をわたしたちもいただいて、粘り強く取り組んでいく、そういう歩みであります。

毎年教皇様は「[被造物を大切にする世界祈願日](#)」のためにメッセージを出されます。フランシスコ教皇様は今年のメッセージでわたしたちに二つのことを呼び掛けていらっしゃいます。

一つは「わたしたちの心を変える」ということです。それは、被造物というのは利用し尽くす対象なのではなくて、神様からいただいた贈り物であって、わたしたちが大切に守っていかなければならないというふうに変えることであり、そして、そのことに基づいて、もう一つは「ライフスタイルを変える」ということです。いろんな機会にたびたび、この教会以外でも言われていることすけれども、教皇様の言葉を通して、どのようなライフスタイルにわたしたちが招かれているのかを確認したいと思います。ちょっと朗読します。「今も続く神の創造に協力しましょう。その選択とは、資源利用をできるかぎり控え、楽しく節約し、廃棄物を適正に処理しリサイクルを行い、環境に優しく社会的責任にかなう製品やサービスの利用へシフトチェンジするといったことです」。教皇様はこのようなおっしゃいます。

一人ひとりの出来ることは小さいかもしれませんが、しかし、小さな川の流れが集まって大きな河になるように——今年の「被造物を大切にする世界祈願日」のテーマは「正義と平和を大河のように」っていうテーマになっていますけれども——それこそが、いっぺんで大きな河が急に流れ始めるのではない、細い流れがいくつも集まって川になる、そのようなことをイメージしながら、一人ひとりが今、造り主である神様との繋がりの中で、自分たちの心の中にある自分中心の心から清められて、今何をすべきか、ということに取り組んでいくことができますように、このごミサを通して導きと、そして取り組んでいくための勇気、また忍耐の恵みを頂きたいと思います。

参照：教皇フランシスコ「被造物を大切にする世界祈願日」メッセージ

<https://www.cbcj.catholic.jp/2023/07/11/27371/>

---

ミサ説教はカトリック高円寺教会ホームページの「ミサ説教」のページにも掲載されています。

PC <http://www.koenji-catholic.jp/cgi-bin/wiki/wiki.cgi>

携帯 <http://www.koenji-catholic.jp/mobile/>